

お馴染み渡邊毅氏著「愛国心の教科書」から紹介します。氏は昭和35年生まれとまだまだ若いですが、こういう教師に教わる生徒は本当に幸せだと思います。

フランスの新聞が絶賛した日本軍

敵対し戦った相手でも、降参したものに、ひどい仕打ちをしないというのが、「武士の情け」であると、前節に書きましたが、武士道精神は明治以降に戦われた近代戦争においても発揮され、世界の賞賛を得ています。

日清戦争(明治二十七年、一八九四)での日本軍の行動について、フランスの新聞『フィガロ』の従軍記者が次のように日本軍の人道的行動を絶賛しています。

「全世界に公表すべきことは、清兵は日本兵に対し残酷であったが、日本兵はこれに報復せず大いに寛大優遇の処置をもって清軍捕虜を待遇し、病人にも負傷者にもみな治療を与えた。われわれは日本民族のような慈愛心に富んだ民族のごとき存在をこの広大な地球上に発見できるかを怪しむ」。

国際法には、捕虜虐待などを禁じた戦争法規がありますが、一般的に国際法の遵守を主張するのは、弱小国か敗戦国で、強国や戦勝国は国際法を平然と無視するというのが通例でした。

しかし、わが国は清国に対して圧倒的な勝利者でありながら、国際法を忠実に守り、しかも武士道精神を発揮して、敗者に対して親切で、温かな処置でもって臨みました。

供物や花が絶えないロシア人捕虜墓地

日露戦争のロシアの敗残兵や捕虜への対応も、日本人はじつに温かくきめ細やかでした。したがって、「[ロシア](#)人たちを親切に処遇した日本人の偉業は、当時の国際社会で広く知られるところ」(『天皇と赤十字—日本の人道主義100年』オリヴァー・チェックランド)となりました。

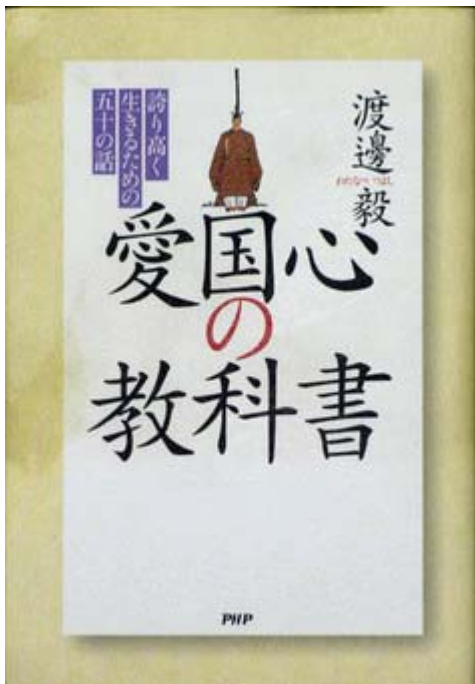
日本海海戦で撃沈された[ロシア](#)軍艦の水兵たちに、三度の食事、そして酒やタバコも与えて厚遇したのは、対馬の島民たちでした。

幕末に[ロシア](#)軍艦に不法占拠され、住民が殺傷された記憶も島民の中には生々しく残っていたはずなのに、虐待をうけたという[ロシア](#)兵は一人としておらず、体調が整った後、捕虜収容所へと送還される時、介護した島民たちと[ロシア](#)兵たちがともに涙を流して別れを惜しんだといいます。

それは、当時、全国二十六カ所につくられた[ロシア](#)人捕虜収容所においても同様でした。収容された[ロシア](#)兵は、全部で約七万三千人。そのうち最多の人数を収容した大阪・堺市の浜寺にあった収容所では、[ロシア](#)人が好む黒パンを焼くための製造所や、礼拝所が設けられました。

愛媛県の高浜では、[ロシア](#)文字で、「祖国のために戦った露国の勇士を高浜の町民は歓迎する」という幕を掲げ、高浜の駅長が[ロシア](#)人捕虜を出迎えて、「ロシアの勇士諸君を迎える役目を命ぜられ光栄に思っている、と同時に、諸君の境遇の不幸は同情に堪えない」と挨拶して、捕虜たちを驚かせたそうです。捕虜たちの市内の散策は自由。[温泉](#)にも何度も入れてもらえたそうです。

病死した[ロシア](#)人は、大阪泉大津市の墓地に葬られ、今も地元の人たちの手で丁寧に管理されています。また、最初につくられた松山市の収容所のロシア人墓地は、今でも保存会や婦人会、近くの中学校の生徒たちが清掃奉仕を続け、雑や花の絶えることがないそうです。



ドイツ人捕虜の感謝の印「ドイツ橋」

外国人捕虜との交流は、大正時代、第一次大戦後のドイツ人捕虜との間でもみられました。わが国は・同盟国イギリスの要請によって、清国・山東省のドイツ租借地を攻撃して陥落させた後、約四千百六十九名のドイツ人捕虜が日本に送られてきました。

彼らは久留米、福岡、徳島など十三の収容所に収容され、約三年間この収容所で生活を送りますが、この間、演奏会の行える野外ステージやテニスコートなどを造り、新聞なども発行していたといえます。

外出も自由でしたから、周辺一般の日本人との接触も頻繁に行われ、バターやチーズの製法を講師として出張して教えたり、収容所を見学に来る小学生などと交流が行われたりしました。

こうしたわが国の対応に、ドイツ人捕虜たちは感じ入り、地域住民たちのために砂岩製の長さ九メートル、幅二・一メートル、高さ三・二メートルの石積みアーチ型橋を作ってくれました。これは今でもドイツ橋Lの名で・徳島県曙市の麓卑神社の社殿裏手に残っており、平成十六年に県教育委員会が県史跡に指定しています。

徳島・板東町(現・鳴門市)の板東俘虜収容所にいた捕虜たちは、ドイツに帰っても、ここでの生活を懐かしんで「バンドーを偲ぶ会」を結成し、五十年後に板東を再び訪れて地元住民たちと旧交をあたためたりするといった交流が続いたのでした。

さらに収容所跡に建てられたドイツ村公園・ドイツ館の建設費用にと、元捕虜たちから続々と寄付が寄せられるなどといった事実は、日本側の彼らに対する対応がいかに親切であり、人道的であかしあったかを物語る証であるといえるでしょう。

愛国心の教科書P178-180 (誇り高く生きる50の話 PHP研究所 定価1500円税別)

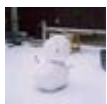
カテゴリ: コラム フォルダ: 指定なし   

コメント(20)

タグ: 愛国心 武士道 名誉 同情 捕虜 収容所 近代戦争

コメント(20)

コメントを書く場合はログインしてください。



Commented by [すずめめだか](#) さん

2008/10/07 13:17

捕虜の話が出ましたので、八幡製鉄所について。

ここにも戦争中には捕虜の方が働いていました。[イギリス](#)、[オーストラリア](#)、[インド](#)兵の捕虜で1200人ぐらいいました。製鉄所はクリスマスパーティをしたり、扱いに気を使っていましたから、終戦後も何も問題は起こりませんでした。と元八幡製鉄所長水野勲氏が平成14年にお話されています。



Commented by **花うさぎ** さん

To すずめめだかさん

2008/10/07 14:14

> 製鉄所はクリスマスパーティをしたり、扱いに気を使っていましたから、終戦後も何も問題は起こりませんでした。と元八幡製鉄所長水野勲氏が平成14年にお話されています。

これは貴重なお話、有り難うございました。できればすずめめだかさんもこういう話をブログで紹介してくれると嬉しいです。

日本人のくせに日本の事を悪く言う反日人間がいまだに多く、そうした自虐史観を正すようなエントリーを心がけていきたいと思っています(^ ^)。



Commented by **kaigaramusi** さん

花うさぎ先生、こんにちは。(へへ)

あ、何かちがう...↑

2008/10/07 14:38

わが子にはこのような日本人の話をたくさんしてやりたいと思います。そのためには勉強！ですね。

自分の弱さを考えたときに「故郷」というものがとても希薄であることが一番の要因かな？と思います。その上、祖国に対しても後ろめたさを感じていた時期は何でも他人のせいばかりしていました。

出会った人たちで、輝いて見えたのはなぜかみんな自分の田舎に愛着と誇りをもっている人たちばかりでした。自分の子は日本と故郷に誇りを持てる大人に育てたいです。親の責任は重大ですね。よって日教組は解体すべき！に一票です。



Commented by **花うさぎ** さん

To kaigaramusiさん

2008/10/07 15:31

> わが子にはこのような日本人の話をたくさんしてやりたいと思います。そのためには勉強！ですね。

前に話したかも知れませんが「世界史対照年表」を見せて、日本という国のの凄さを教えてやって下さい。

<http://f.hatena.ne.jp/Yasima/20080602104306>

そして神武天皇以来、日本は男系で一二五代も続いた世界に例のない国であり、天皇陛下は外交儀礼上バチカン教皇の上にある最高の存在である事も。これがあるからこそ、上で紹介したような話も、日本人は当然のこととして行ってきた歴史があるのです。

そういう意味では実は「いま」が日本人の日本人たる所以が最も危機にさらされていると言っても過言ではありません。戦後、60年以上も続いた日教組教育のお陰で、日本人の道徳心は粉々にされてしまいました。

> 自分の子は日本と故郷に誇りを持てる大人に育てたいです。

>親の責任は重大ですね。
>よって日教組は解体すべき！に一票です。

2008/10/07 15:33

嬉しい一票です(^ ^)。



Commented by **du-staro** さん
hanausagi様

2008/10/07 16:01

別に日本人のことをことさら悪くいうつもりはありませんが、日本人の捕虜の取り扱いについては、パターン死の行進や泰緬鉄道での捕虜の強制労働のほうが有名です。

歴史から学ぶつもりがあるなら、日本人のよい面も悪い面も客観的に押さえておく必要があると思いますよ。



Commented by **kaigaramusi** さん
To du-staroさん

>パターン死の行進や泰緬鉄道での捕虜の強制労働のほうが有名です。

「パターン死の行進」については、当時そこにいた日本軍も貧しく物資もままならず、やむをえず米兵を医療施設のあるところまで歩かせた、と本で読んだ記憶がありますが真相は違うのでしょうか。

泰緬鉄道の事は全く知りませんでした。調べてみますね。



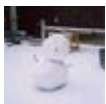
Commented by **花うさぎ** さん
To du-staroさん

2008/10/07 16:42

なんか常連になっちゃいましたね。ところでstaroさんは有名ですが、貴方のHNはどういう意味ですか？。

>日本人の捕虜の取り扱いについては、パターン死の行進や泰緬鉄道での捕虜の強制労働のほうが有名です。

この二つの例の貴方の認識を聞かせて下さい。まさか泰緬鉄道のほうは「戦場に架ける橋」に描かれているとおりで、なんて云わないでしょうね。



Commented by **すずめめだか** さん
To du-staroさん

2008/10/07 16:49

> 歴史から学ぶつもりがあるなら、日本人のよい面も悪い面も客観的に押さえておく必要があると思いますよ。

学校もマスコミも戦後60数年悪い面はごまんと提示しています。それに対し違和感を持ち自力で探し、ここにたどり着いています。
よい面などごろごろ転がっていません。そんなこと言われなくてもここに来ている人はそれくらいのこと分かっていると感じますよ。



Commented by **zukin** さん
hanausagi様

2008/10/07 23:03

こんばんは。横入りですみませんが、「パターン死の行進」について、知り合いの英国人が言うには「あれはデス・マーチではなくてただのマーチだ」とのことです。私も同じ意見です。

ただ、du-staroさんの言う「のほう有名」というのは事実かもしれませんね、残念ながら。海外の一部の「知識人」の間では常識化しているようです。ここに来られる方の大半は、そういう誤った認識を正そうと努力していらっしゃるものと思いますが。



Commented by **花うさぎ** さん
To zukinさん

2008/10/08 05:54

>知り合いの英国人が言うには「あれはデス・マーチではなくてただのマーチだ」とのことです。私も同じ意見です。

勝者が敗者を裁く一方的なリンチ(東京裁判)の中での日本軍の悪行ですから、主権回復後も政府として否定してこなかった事も問題ですね。ちょっと調べるとちゃんと保守論壇で否定されています。

>「のぼうが有名」というのは事実かもしれませんが、残念ながら。

実際にはなかった「従軍慰安婦」が世界に広まった構図と似てますね。反日プロパガンダにたいして堂々と反論出来る日本人を一人でも多く増やしたいです。



Commented by [花うさぎさん](#)
・うれしいニュース

2008/10/08 06:21

ノーベル物理学賞に南部陽一郎、小林誠、益川敏英の三氏が受賞しました。三人が日本人というのは史上初の快挙です。万歳、凄いぞ日本人(^ ^)。

これで1949年の湯川秀樹博士以来、日本人の受賞は15人となりました。1974年の佐藤栄作氏の平和賞、1994年の大江健三郎の文学賞には[?]を感じますが、久方ぶりの明るいニュースを素直に喜びたいと思います。



Commented by [du-staroさん](#)
hanausagiさん、おはようございます。

2008/10/08 09:12

たびたびお邪魔してすみません。自分と異なる意見の方の話は勉強になります。よろしくお願いします。HNは個人的な由来で、特に意味はありません。[ノーベル賞](#)はよかったですね。遅すぎるという話ですね。

パターン死の行進ですが、[Wiki](#)などによれば次の通りです。

日本軍には、捕虜を組織的に拷問したり殺したりする計画はなかった。しかし彼らは、コレヒドールへの攻撃を直ちに開始するため、米比兵をパターン半島から即刻に移動させる必要があった。また日本兵は、死ぬまで戦わず降服した捕虜を蔑んでいた。

トラックで運ばれたものや行進の先頭にいたもの以外はなんらかの残虐行為を受けていた。この背景としては日本軍ではもともと戒告のために殴打することが日常的にあり、捕虜が不服従とみると暴力をふるったのである。辻政信はこの戦争は人種間戦争であるとして、[アメリカ](#)人兵士は白人であるから、[フィリピン](#)人兵士は裏切り者だから処刑しろと扇動しており、独断で「大本営から」のものとする捕虜の処刑命令を出していた。

文書がなく本物かどうか疑わしいため、無視したり逆に捕虜を釈放したとの証言もあるが、実行したものもいた。収容所にたどり着いたのは約5万4千人で、脱走者を除くと7千人から1万人がマラリアや飢え、殴打、処刑などで死亡したと見られている。

まあ自軍内においても、兵に対しては鉄拳制裁が横行し、死んで捕囚の辱めを受けずという教育も徹底していたようですから、捕虜に対して厳しいのも当然です。マラリアもあったし、日本軍犠牲者も多数出たのは事実ですが、7万人程度のうち、2、3日の行進の間に1万人近くが死亡というのは、坂東とはだいぶ違うようです。



Commented by [RAMさん](#)
To du-staroさん
横レスですが・・・

2008/10/08 09:49

> まあ自軍内においても、兵に対しては鉄拳制裁が横行し、死んで捕囚の辱めを受けずという教育も徹底していたようですから、・・・

戦陣訓のご引用なら「生きて虜囚(りょしゅう)の辱(はずかしめ)を受けず、死して罪過の汚名を残すこと勿(なか)れ」と、正確にお願いいたします。さらに、この前に続く文「恥を知る者は強し。常に郷党(きょうとう)家門の面目を思ひ、愈々(いよいよ)奮励(ふんれい)してその期待に答ふべし、」を合わせて解釈すれば、「捕虜になってはいけない」という解釈ではないという説が大きいのは、ご存じですか？wikiからの「パターン」の引用をされるなら、同じwikiが、戦陣訓のこの部分は両論併記にせざるを得なかったほど、一般に誤解が流布されている事もお考えあるべきではないでしょうか？

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%88%A6%E9%99%A3%E8%A8%93>
[フィリピン](#)戦線においては、特に[マッカーサー](#)を逃亡同然に駆逐したという事で、[GHQ](#)は、一番恨んでいたところであり、戦後の裁判においても、「日本＝悪」という図式を徹底させたかった、政治色の濃い強弁の多い部分であるという事実をお見逃し無く。



Commented by [花うさぎ](#) さん
To du-staroさん

2008/10/08 09:53

>パターン死の行進ですが、[Wiki](#)などによれば次の通りです。

貴方のお考えのバックボーンはこの[Wiki](#)だけですか？。コメントする気力がなくなります。

この[Wikipedia](#)というのは誰でも書き込める百科事典としてネットでは重宝されていますが、実際は中立的な意見かというところではありません。これまで見てきた印象では左にかなり傾いていますよ。

そうしたソースをそのまま信じて危険ですよとだけ云っておきます。



Commented by [花うさぎ](#) さん
To hanausagiさん

2008/10/08 10:58

追加です。

日本の軍隊は世界からも「最も規律が取れている軍隊」と評価されていました。それもその筈で自らを「皇軍」(天皇陛下の軍隊)と称して、例えば理由もなく民家や農家を襲って殺人や収奪を行えば重賞倉入りなどとされていたからです。もちろん勝手なリンチも御法度でした。陛下の名を汚すことに繋がるからです。

- >死ぬまで戦わず降服した捕虜を蔑んでいた。
- >なんらかの残虐行為を受けていた。
- >捕虜が不服従とみると暴力をふるったのである。

こんな文章が随所に出てくるということは、日本の軍隊の評判を貶めたいという人間が書いていると、瞬時に判断出来るようになって下さい。



Commented by [花うさぎ](#) さん
To RAMさん

2008/10/08 15:31

>[フィリピン](#)戦線においては、特に[マッカーサー](#)を逃亡同然に駆逐したという事で、[GHQ](#)は、一番恨んでいたところであり、戦後の裁判においても、「日本＝悪」という図式を徹底させたかった、

この部分ですが、常識的に考えて日本軍の倍の戦力を保持しながら、自分だけが飛行機で逃れるというのは、日本で言えば敵前逃亡で[軍法会議](#)間違いない行為ですよ？。

何が「I shall return」だと思うのですが、逃亡先で何と[連合](#)国軍総司令官に昇進するのです？。私の頭の中では理解出来ません。

で、実際に帰った際に、現地人に大歓迎された事になってますが、事実はそんなことはありません。写真撮影のために急遽現地人を集めて撮り直した、とどこぞの本でみて、そうだろうなと思ったものでした(^ ^)。



Commented by [RAM](#) さん
To hanausagiさん

2008/10/08 16:06

>この部分ですが、常識的に考えて日本軍の倍の戦力を保持しながら、自分だけが飛行機で逃れるというのは、日本で言えば敵前逃亡で[軍法会議](#)間違いない行為ですよ？。
* 事実関係の確認です。飛行機ではなく、脱出は魚雷艇でした。で、これは大統領命令の形をとっています。ルーズベルトは、[マッカーサー](#)を嫌っていましたが、陸軍に遠慮した形です。



Commented by [花うさぎ](#) さん
To RAMさん

2008/10/08 16:57

> * 事実関係の確認です。飛行機ではなく、脱出は魚雷艇でしたね。

コレヒドールからミンダナオ島までが魚雷艇、そこから[オーストラリア](#)までがB-17でした。

> ルーズベルトは、[マッカーサー](#)を嫌っていましたが、陸軍に遠慮した形です。

へえ～、この部分は知りませんでした。勉強になりました。



Commented by **leny** さん

2008/10/08 21:05

私の日本軍の前線での規律についての「与えられた印象」は、日露戦争あたりまでと大東亜戦争で断絶があり、かなり違和感があります。

海外における度重なる勝利に驕って規律が乱れたと言うのもっともらしい話がありますが、大東亜戦争当時の軍人の方の遺書を読むと、略奪暴行をしていた人間の書いたものとは思えないんですね。

青年将校たちによるクーデターの発生などを通して、軍の規律がおかしくなっていたのかな？と思う反面、私が政治家として否定している東條英機大将の逸話では、前線において軍律に厳しく、略奪・暴行などは一切なかったとされています(実際にそうだったでしょうし、前線の指揮官として理想を具現し、それだけで名将の名に値します)。殊更、穿った見方をすると、珍しいからこそ東條**大将**旗下の規律の良さが目立ったと言う人がいるかも知れませんが。

少しずつ個々の軍人の方の伝記を読み続けていますが、前線においては、軍属や軍にむらがる利権屋が悪評の大部を占めているのと、補給がままならない為に十分な待遇を捕虜に出来なかったり、旗下の一部を掌握できなくなっていたのかな？と言う「印象」の段階にいます。

政治にかぶれて権力闘争に血道を上げ、前線の軍をもてあそぶかのように移動させていた一部の参謀本部将校などの後方のデタラメさに対して、前線での日本兵は異なる本来の「日本軍人」だったように感じています。

大東亜共栄圏の理想に殉じて、[ベトナム](#)や[インドネシア](#)に残って欧米の再侵略に抵抗した元日本軍人たちの活動を見ても、略奪・暴行をしていた軍隊が、その地に溶け込める筈もない、と思うのですよね。



Commented by **花うさぎ** さん

2008/10/08 21:42

To lenyさん

> 私が政治家として否定している東條英機大将の逸話では、前線において軍律に厳しく、略奪・暴行などは一切なかったとされています

あれ、否定しているんですか？。

それはさておき「一切なかった」とは言い切れないでしょうが、限りなくそれに近づく努力をした、と云って良いと私は考えています。

いま、記憶だけで書き込みしていますが、松井石根陸軍**大将**は南京攻略線で一部の部下が略奪をし「皇軍の名を汚した」として処罰した筈ですが、これは逆に考えると、そのくらい軍律に厳しかったといえると思います。

> 大東亜共栄圏の理想に殉じて、[ベトナム](#)や[インドネシア](#)に残って欧米の再侵略に抵抗した元日本軍人たちの活動を見ても、略奪・暴行をしていた軍隊が、その地に溶け込める筈もない、と思うのですよね。

いいですね～。この辺の話は日本軍の大和魂・武士道に通じる象徴的な部分ですので、是非いろいろ資料や本で理解を深めて下さい。[靖国神社遊就館](#)でみる英霊の遺書を見ると、そういうことを疑うこと自体が恥ずかしくなると私は思います。